

# ふれあい

第 173 号

令和 3 年 12 月  
青森県立中央病院  
(題字は藤野院長)



## 泌尿器科部長就任のご挨拶と 当院泌尿器科の紹介

泌尿器科部長  
岩渕 郁哉



2021年4月に青森県立中央病院泌尿器科部長に就任した岩渕郁哉と申します。1996年に弘前大学を卒業後、当院にはこれまで計4回勤務し、延べ15年程在籍しております。先々代部長の津久井厚先生、先代部長の川口俊明先生のご指導を受けつつ医師人生の半分以上を過ごしてまいりました。その他の期間は弘前大学附属病院をはじめ、青森県内の基幹病院で研鑽を積んできたつもりです。何卒よろしくお願ひいたします。

当院泌尿器科の特徴、個人的には使命とも思っていることが2つあります。

一つ目は都道府県がん診療連携拠点病院の泌尿器科としてのがん診療です。手術療法は低侵襲を旨とし、これまでは主に腹腔下小切開手術、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術を行ってきました。2021年4月には手術支援ロボットの最新機種ダヴィンチXiが導入され、安全性を担保した上で更にロボット支援下手術を推進してまいります。がん薬物療法においては腎細胞癌、尿路上皮癌、前立腺癌など泌尿器科領域でも2018年にノーベル医学賞を受賞したオプジーボをはじめとした免疫チェックポイント阻害薬やその併用療法、その他の新薬の開発が著しく、必要とされる方に停滞なく迅速に提供できるように尽力いたします。当院の強みとして各科に優秀な専門医が多数在籍していることがあります。手術療法はもとより、薬物療法では特に、免疫療法の副作用は肺などの呼吸器、甲状腺・下垂体・膵臓などの内分泌、肝・大腸などの消化器、心臓など全身のどこにでも有害事象が起こる可能性があり専門領域科と協力して対応いたします。放射線治療は腫瘍放射線科と、標準治療が無くなった患者様へのがんゲノム医療

は、県内でがん遺伝子パネル検査が可能な2施設のうちの一つとして臨床遺伝科と連携して行います。

二つ目は救命救急センターを持つ病院の泌尿器科としての仕事です。男性の陰嚢・陰茎の急性期疾患の他、腎臓の外傷による出血などに対する血管内治療は放射線部と、泌尿器重症感染症は総合診療部などと、やはり当院の強みを生かして協力して治療いたします。

その他、副腎腫瘍に対する手術や腎不全に対する透析療法なども当科の診療範囲となります。

しかし弱点があるのもまた事実であります。尿路結石や前立腺肥大症に対する手術は当院には碎石装置やレーザー発生装置が無いため基本的には鷹揚郷青森病院に、慢性腎不全における血液透析は透析ベット数が8床と少ないため重度合併症のない血液透析導入などは近隣の透析施設に治療をお願いしております。また小児の稀な疾患や肉腫などの希少がんは症例数や経験の多い更なる高次医療機関へのセカンドオピニオンも勧めております。

孫子の言葉に「彼を知り己を知れば百戦殆からず」というビジネスやスポーツの世界で有名なものがあるそうです。向かう相手の実情と自分の実力を正しく知ることによって負けない戦い方ができるという意味だそうです。私は医療の世界にも当てはまり、病状を正しく把握した上で自分自身に可能な治療を客観的に評価することで、患者様に最適な選択肢を提案できるのではないかと考え実践していく所存です。

まだまだ若輩者ではございますが、今後とも何卒宜しくお願ひいたします。



### ■総合周産期母子医療センター開設まで

わたしは昭和36（1961）年に長島にあった旧青森県立中央病院で生まれました。分娩記録はまだ残っていました。昭和56（1981）年に現在の病院となり、当時は4階東病棟内に産科・新生児・未熟児室が入り、平成13（2001）年にNICU（新生児集中治療室）開設、平成16（2004）年11月に総合周産期母子医療センターが開設となりました。当時はMFICU 9床、後方16床でスタートしましたが、現在は、2ベッド、4ベッド部屋も改装しMFICU（母体胎児集中治療室）9床、後方23床で運営しております。ご存じの通り、青森県の少子化は新型コロナウイルス感染症のあおり、里帰り分娩制限などから当院で取り扱う分娩数は減少しており、最高650件くらいだったのが400台前半まで減少しております。しかし、いわゆるハイリスク妊産婦の絶対数は変わらず、同様にNICUにお世話になる症例数も変化はありません。出産年齢の高齢化も影響していると思われまます。ちなみに35歳以上は約4割、40歳以上は約1割という状況です。MFICUがあるため、産婦人科医は24時間常駐となっておりますが、産科以外の緊急患者対応も行わなくてはならず、将来的には分娩1000件に対応できる産婦人科医師は10名以上が望ましいという厚生労働省・学会からの指針があり、今後当院ではどのような施設を目指すかについては、青森市民病院との統合案も含めて関係者で意見交換する必要があります。

### ■産科部門カルテ導入

2017年よりFINDEX社のMapleNoteという部門電子カルテを導入、今までプレグノグラム（妊娠経過表）、パルトグラム（分娩経過表）は手書きから電子カルテ化されました。いろいろと改良を加え誤入力も少なくなり効率化が進んでいます。産科外来では28インチのWACOMタブレットを含め、3モニターで入力しております（写真参照）。

### ■PHR（Personal Health Record）導入について

当院ではこのシステムを導入する予定で、できれば他院に通院している妊婦さんの基本情報も共通言語で電子化し、災害時や予期せぬ感染症発症の際などは、かかりつけ医に連絡しなくても最低限の情報が入手できればと思っています。

### ■新型コロナウイルス感染症の影響は？

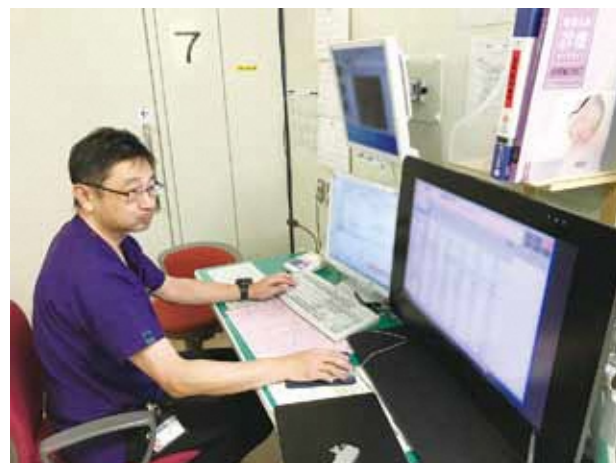
MFICU 9床のうち陰圧室を含め2床を感染症病床として確保しておりますが、これまでに入院した陽性者は、無症状または軽症で緊急帝王切開が必要な症例はありませんでした。里帰りが減った理由にはなっているかと思いますが、今後も様々な感染症が増えることが予想されるため、新病院ではこれらに対応できるような図面を作るべきかと思っています。幸い病棟・外来閉鎖となることなくほっとしているところです。

### ■教育活動について

当院産婦人科医は弘前大学医学部附属病院、青森県立保健大学、青森中央学院大学の講義・実習を担当させていただいております。また、主に県内医療従事者向けの新生児蘇生法（NCP）コース、母体救命普及システム協議会のコース開催などを行っております。また、精神疾患を持っている、社会的な問題を抱えている妊産婦さんを対象とした周産期トールサポートミーティングを隔月、多職種で開催しております。その他、母子保健に関わるネットワーク会議、救命救急士を含め消防団員向けに周産期救命救急研修会も開催しております。

### ■当センターの将来像は？

まずは青森市民病院との統合を図り医師を集約しつつ、業務内容の効率化を図れればと思っています。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 薬剤師の病棟業務について

薬剤部部長  
山本 章二



最近コミック誌やテレビドラマでも注目を浴びた病院薬剤師。ドラマでは「調剤室の魔術師」なる薬剤師が出てくる場面もあり、素早く調剤する光景を想像していましたが、なんと本当のマジックショーが始まるというオチでした。「薬剤師あるある」を感じる描写も多かったのですが、「こんな薬剤師いません!」という声も。多少の脚色はあるものの、ドラマを見て病院薬剤師の仕事に興味を持ち、もっと詳しく知りたいと思った方もいるのではないのでしょうか。

病院薬剤師業務にあって調剤薬局の薬剤師業務に無いものとして言えばまず、病棟業務が挙げられます。昔は「薬剤師の花形」と言われ、憧れる人も多かった病棟担当の薬剤師の仕事をご紹介します。

昔は「なぜ病棟に薬剤師がいるの?」と不思議に思われたりしましたが、病棟業務における薬剤師の基本的な役割には、「入院患者さんに対して、最適な薬物療法を実施することで有効性・安全性の向上を目指すこと」が挙げられます。最近の薬物療法の進歩によって、患者さん自身が薬の効能・効果、用法・用量を理解して使用する必要性が増してきています。医師が患者さんの状態を診て処方した薬が、どうやって使用したらどのように効くのか、薬剤師は患者さんの理解を助ける橋渡し役になりたいと考えています。

### 具体的な業務は

○入院された患者さんまたはご家族と面談をし、持参された薬、飲んでいる市販薬や健康食品等の内容、服薬の状況をお聞きし、飲み合わせ等の確認をしています。最近では後発医薬品が多く使用されているため、名前が違っていても同じ薬の場合があります。またアレルギー歴、副作用歴も確認し、使用してはいけない薬を把握しています。

○薬の使用前には、疾患や症状、年齢、体格、腎臓や肝臓の機能などを確認したうえで、投与量、投与速度に問題がないか、注射薬と内服薬との組み合わせが問題ないかを確認しています。注射薬、内服薬、塗り薬など剤形が違っていても同じ成分があるので注意が必要です。

○薬を使用する際には、患者さんまたはご家族に効果や飲み方(使用方法)、起こり得る副作用とその対処法の説明を行っています。解熱鎮痛剤の坐薬を座って飲んだ。耳に作用する点耳薬を目に差した。錠剤を溶かして使用する点眼薬なのに、錠

剤を飲んで薬効の無い水液を目に差していたなど、誤って使用した事例があります。薬の使用方法は大事です。

○薬の使用後には、効果が出ているか、副作用が出ていないかを確認しています。その上で内容を医師へ伝え、薬の処方設計や提案をしています。

○薬を決められた用法・用量で使用しているかどうか確認します。医師は、効果が出ない場合、薬をきちんと使用しているものとして薬を増量する場合がありますため、注意が必要です。

○退院時には、退院後の生活に合わせたお薬の使用(飲み方、服用時間等)ができるよう薬の説明をすることもあります。

○内服薬や軟膏などの外用薬の調剤業務の他、抗がん剤の調製を清潔なクリーンルームで無菌的に行ってます。これは県内随一、東北でも上位の業務量です。

上記業務で得られた薬に関する情報は、医師や他の医療スタッフとも共有し、患者さんに適切な薬物療法が行われ、また患者さんに安心して薬を使用して頂けるよう、医師や看護師をはじめとする多くの部署と連携しています。

当院では一つの病棟に3～4人の薬剤師がそれぞれ配置され、平日1～2人が各病棟で病棟業務を行っています。薬に関することはお気軽に薬剤師にお尋ねください。



# 青森県立中央病院公式SNSアカウント (Facebook、Instagram、Twitter、YouTube)を 開設しております。

開かれた県立病院、信頼される県立病院、魅力ある県立病院を積極的にPRするため、公式SNSアカウント

(Facebook、Instagram、Twitter、YouTube) を開設しました。

当院の新着情報をご覧ください。

みなさまからの「いいね」や「フォロー」をお待ちしております。

## Facebook

URL:<https://www.facebook.com/aomorikenbyo>



## Instagram

URL:[https://www.instagram.com/aomori.kenbyo\\_official/](https://www.instagram.com/aomori.kenbyo_official/)



## Twitter

URL:<https://twitter.com/aomorikenbyo>



## YouTube

URL:<https://www.youtube.com/channel/UCBC68Xlho4bAKfxX73JXmjQ>



なお、いただいたコメントやダイレクトメッセージ等への返信等  
は行いませんので予めご了承ください。

青森県立中央病院リクルートサイト Join Usも開設中！

◎非常勤職員（医療技術職員・事務系職員）も募集しています。

URL:<https://aomori-kenbyo.jp/recruit-joinus/>

